

## 【建設業動向調査概況】

### 1. 調査概要

産業振興部産業連携開発課では、市内建設業の経営動向を探る手段として、アンケート調査を実施しています。

今回は令和2年10月から12月期(4期)の業況について調査を行い、その結果については下記のとおりとなりました。

### 2. 調査実施要領

- (1) 実施時期 令和3年1月
- (2) 対象企業 須坂市内に本社または事業所を有する建設業45社  
(土木5社、建築・大工・左官8社、電機10社、造園1社、水道4社)
- (3) 回答企業数 28社(回答率 62%)

### 3. 調査概況

実施要領のとおり動向調査を行った結果、業況判断指数(DI:「好転」と回答した企業割合と「悪化」と回答した企業割合の差)については次のとおりとなりました。

市内建設業の業況は、前期(令和2年7月～9月期)より好転しました。

前期と比べた業況は、「好転」とする企業の割合が**14.3%**、「悪化」とする企業の割合が**25.0%**で「好転」から「悪化」を引いた差(DI)は**▲10.7**ポイントとなりました。

前回の調査結果DIポイント**▲20.0**と比較しますと、**9.3**ポイント好転しました。

また、前年同期と比べた業況は、「好転」とする企業の割合が**17.9%**、「悪化」とする企業の割合が**32.1%**であり、「好転」から「悪化」を引いた差は**▲14.2**ポイントとなりました。

業種別の業況判断指数(DI)は、土木関係が**20.0**ポイント(前回:**0.0**ポイント)、建築関係が**▲25.0**ポイント(前回:**0.0**ポイント)、電機関係が**▲30.0**ポイント(前回:**▲62.5**ポイント)、造園関係が**0.0**ポイント(前回:**100.0**ポイント)、水道関係が**25.0**ポイント(前回:**▲33.3**ポイント)となっております。

3か月後の次期予想では、「好転」とする企業の割合が**3.6%**、「悪化」とする企業の割合が**46.4%**であり、「好転」から「悪化」を引いた差は**▲42.8**ポイントとなり、今期より悪化すると予想されます。

経営上の問題点(複数回答可)については、「人材不足」60.7%、「受注の減少」46.4%、「労働力不足」32.1%、「同業他社との競争激化」28.6%、「金融難」21.4%、「技術力不足」、「原材料・仕入単価の上昇」17.9%、「工期短縮」7.1%、「人員過剰」0.0%となっております。

Q 9 (1) 日銀松本支店が12月14日に発表した、企業短期経済観測調査(短観)によると、全産業の業況判断指数(DI)は、マイナス26で前回調査(9月)から18ポイント上昇し、2期連続で改善しました。自社の業況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」と「今はないが、今後好転が見込まれる」3.6%、「変わらない」50.0%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」32.1%、「悪化している」10.7%

(2) (1)で「好転している」、または「悪化している」と答えた方にお伺いします。具体的な影響についてご記入ください。

A 「水害関連の工事があり、仕事量はあった。」「新型コロナウイルスの影響により、公共投資、民間設備投資など、減少を予測している。」「受注減少。設備投資が少なくなるだろう。」等。

Q 10 新型コロナウイルス感染拡大影響から、業績好転はいつ頃になると予想しますか。

A 「わからない」57.1%、「2年以上3年未満」42.9%、「1年未満」0.0%、「5年以上」0.0%

Q 11 1都2府8県に緊急事態宣言が再発令されましたが、貴社の事業活動にどのような影響が出ていますか。

A 「出張を取りやめている」、「その他(休日を増やす、受注減少、影響はなし)」17.9%、「部品調達ができない」7.1%、「テレワークの実施」3.6%、「オンラインで出張会議等を実施」0.0%、「無回答」53.6%

Q 12 2021年は貴社にとってどのような年になると予想しますか。

A 「どちらともいえない」50.0%、「悪い」35.7%、「良い」3.6%、「無回答」10.7%

Q 13 その他経営上の問題について

A 「観光、飲食関連は大変なことですが、建設業はそんなに仕事に影響がないのかもしれませんが」、「廃業の準備、社員の転職」、「技術者不足」、「慢性的な技術者不足である。今後は働き方改革も大きな課題である」、「今のところ横ばいですが、先のことはわかりません。よくなってほしいです」、「高齢化」等。







